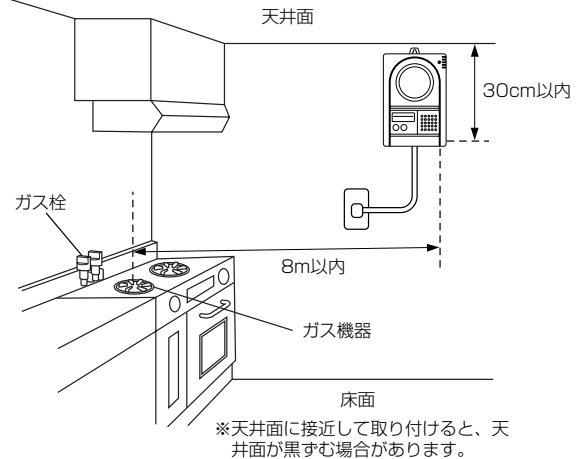


1. 取付位置

⚠ 注意

- ガスもれを検知しようとする燃焼ガス機器を設置している場所と同一室内に取付けます。
- もれたガスが滞留しやすい位置で緑ランプの確認しやすい位置、容易に点検できる場所へ取付けます。
- ガスもれを検知しようとする燃焼ガス機器の真上はさけた壁面で、燃焼ガス機器から8m以内、天井面から30cm以内。
※ 次のような場所には取付けしないでください。
 - (1) 燃焼ガス機器の真上および排気、湯気、油煙などが直接あたるおそれのある場所。テーブルコンロの真上、湯沸器の排気が直接あたるところは絶対にさけること。
 - (2) 給気口、換気扇、ドア付近など風通しのよいところ、すきま風の入るところ。
 - (3) 浴室など水のかかる場所や水滴のつくところ。
 - (4) カーテン等で仕切られるところ。
 - (5) 屋外。
 - (6) ビルなどの湯沸室で夜間電源を切るところや、使用時しか電源を入れないところ。
 - (7) 温度が-10℃以下または50℃以上になるところ。

取付例



2. 取付方法

2-1 有効期限の記入

この警報器の有効期限は、取り付け後5年間です。
必ず、警報器本体に貼ってある「有効期限ラベル」に、油性ボールペン、油性ペンなどで有効期限の年月を記入してください。

2-2 警報器本体の取り付け

(壁面の材質、強度、およびAC100Vのコンセント位置)。

● 取付板による取付け

- (1) 取付板を木ネジ(長さ10mm)で壁面に固定します。
- (2) 電源コードをコンセントまでの長さにあわせて取り出します。
- (3) 警報器裏面の取付板引掛穴に引っ掛けて取付けます。
- (4) 電源コードを付属のコード止めで処理してください。

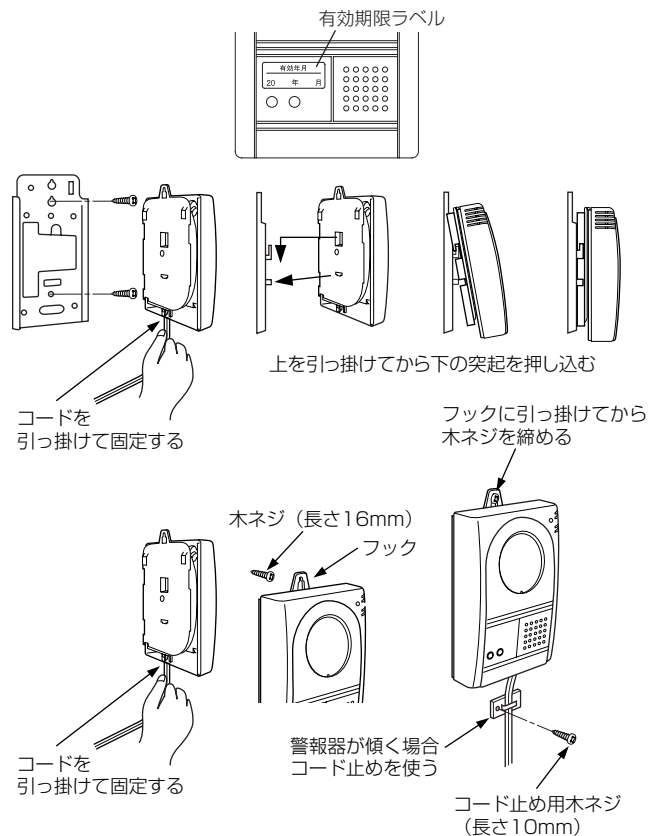
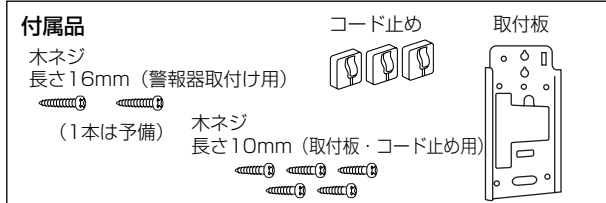
● フックによる取付け

- (1) 警報器のフック部分を木ネジ(長さ16mm)で固定し、取付けます。
- (2) 木ネジを壁面に途中までねじ込みます。
- (3) 電源コードをコンセントまでの長さにあわせて取り出し、警報器のフックを木ネジに引っ掛けます。
- (4) 木ネジを締めつけ、警報器を固定します。

※ 警報器が電源コードに引っ張られて傾くような場合は、付属のコード止めで警報器のすぐ下を止め、一旦コードを真下に引き出してください。

コード止めが接着だけでは弱い場合は付属の木ネジ(10mm)を使用してください。

※ 電源コードの固定に、市販のステッplerや釘などを使用しないでください。



■ 電気設備技術基準および内線規程により、電源コードはステッplerや釘等で固定できません。



裏面もご覧ください!!

■ 3. 作動点検

● 次の順序で動作を確認してください。

<p>(1) 電源の投入 警報器の電源プラグをコンセントに差し込みます。 緑ランプが点滅し、約 30 秒後に点滅から点灯にかわり、警報器が監視状態にはいります。</p>	<p>約30秒後</p> <p>緑ランプ点滅 → 緑ランプ点灯</p> <p>赤ランプ消灯</p> <p>電源を入れる</p>
<p>(2) 作動点検</p> <p>1. 点検ガス採取器(別売品)と、別にライターを用意します。</p> <p>(1) 市販のライター等を点火し、炎の高さを 5cm 程度に調整してください。(炎が小さいと点検ガスを採取しにくくなります。)</p> <p>(2) 点検ガス採取器の容器部分を指で十分圧縮して、採取管の先端を炎の内炎部(青い炎部分)に持っていきます。</p> <p>(3) 容器の圧縮をゆっくりと緩め、炎の中からガス成分を吸引します。(長時間加熱すると点検ガス採取器が破損する場合があります。)</p> <p>(4) 採取管の先端部分の温度が下がるまで、約 30 秒待ちます。(採取管の先端部分は熱くなっていますので、ヤケドに注意してください。)</p> <p>(5) ガス採取器の先端を警報器の点検口に持っていき、容器を圧縮し、採取したガスをゆっくり(約 3 秒程度)注入します。</p> <p>(6) ガスを注入してから約 10 秒後に次のように警報することを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤ランプが 1 分間点灯(緑ランプは点灯)し、警報音(ピッピッピッピッ ガスがもれていませんか)が 3 回だけ鳴ります。 同時に、ガス警報信号(DC 12V)が、赤ランプと同様に 1 分間出力されます。 <p>※この動作は電源投入から 30 秒経過後 3 分 30 秒の間にガスがかかった場合のみです。通常監視時に上記のガス点検を行った時は、通常ガス警報動作になります。</p> <p>(7) 1 分経過すると赤ランプは消灯し、通常の監視状態に戻ります。</p> <p>1 分経過しても濃いガスがある場合は通常状態で警報音を発します。</p>	<p>採取管 点検ガス採取器</p> <p>先端部分は熱くなるのでヤケドに注意</p> <p>外炎(赤い炎部分)</p> <p>内炎(青い炎部分、ここから吸引)</p> <p>青い炎部分から吸引</p> <p>炎の高さを約5cm位に調節</p> <p>点検口に点検ガスを注入</p> <p>点検口に</p> <p>ゆっくりガスを注入</p> <p>約30秒後</p> <p>緑ランプ点灯</p> <p>赤ランプ点灯</p> <p>ピッ、ピッ、ピッ、ピッ</p> <p>ガスがもれていませんか(3回だけ鳴ります。)</p> <p>1分後</p> <p>緑ランプ点灯</p> <p>赤ランプ消灯</p>

⚠ 注意

ライター式点検ガス(EG-3T)では点検しないでください。
 警報音が鳴り止まない場合があります。

⊘ 禁止

